

第1学年A組 英語科学習指導案

場所 1 年 A 組
 日時 平成20年1月15日(火曜日)
 校時 第5校時(13:35-14:25)
 指導教員 教諭 松本 光正

1 単元名 Speaking Plus 3 「電話の会話」－電話の応答、招待する

2 単元について

(1) 生徒観

1年A組は全体的に落ち着いた素直な生徒が多い。授業に際しても活発で反応も良い。学力的には学年の中でも高い。英語に対する興味関心も高い。学力不振者が数名いる。クラスを出席名簿順で半数に分け、前半グループ、後半グループに分け少人数指導を行っている(前半16名、後半14名)。2学期、10月中旬テスト明けで前半と後半が入れ替わっている。後半グループは、理解力は高いが、発話行為やコミュニケーション活動になると消極的になる生徒が数名いる。

(2) 題材観

「電話での応答」の初出。(第2弾はBook 2, SP 2)。話したい相手が直接電話に出た場合の基本的なやり取りを学び、相手を招待する対話を学ぶ。電話での特殊な状況と特殊な表現を理解させ、それらに慣れ親しませる。基本 Skit をベースに Substitution Drill で定着を図り、Option Skit, Drill にまで発展させていきたい。

(3) 指導観

入門期の指導も終盤である、英語学習方法・形態に慣れ個人差が現れてきている。また、教科書・ノート中心に受け身的な授業態度に陥りがちな時期でもある。そこで、少人数指導を生かし、個別学習や形成的評価を取り入れて「確かな学力の向上」に努めている。更に、「授業中における英語使用の重要性」を再認識させ、「聞くこと・話すこと」を重点として指導にあたり、「積極的にコミュニケーションを図る態度を育成」するように心掛けている。

3 学校研究課題との関わりについて

菅谷中学校の学校研究課題は「確かな学力の向上を目指す指導法と評価の工夫」であり、5年目を迎えた。平成19年度の副題は「魅力ある授業の創造」である。「確かな学力」という言葉には基礎基本の定着という観念が強く根付き、反復練習・ドリルの要素が授業に多く取り入れられる。しかし、恒常的な動機付けや興味関心意欲付けが介在しないと授業のマンネリ化に繋がり生徒はやる気自体を失う。そこで、反復練習と恒常的な動機付けを車輪の両輪としてバランスよく指導していくことが必要と考えられる。恒常的な動機付けということには、指導そのものの工夫改善は必須のことであるが、生徒一人一人に配慮した「分かる授業の楽しさ」も含まれるはずである。そこで今回は、「形成的評価」を取り入れて、評価の各場面で生徒に的確なアドバイスを支援できるような工夫を試みた。生徒一人一人に目標を与え、個々に応じた筋道をしっかりと立ててやり、何を学び、学んでいかなければならないのかを理解させることのできる授業の一つとしていきたい。

4 指導計画と評価計画(本時第1時)

(L=listening, S=speaking, R=reading)

時	達成目標	観点別評価・中心技能	評価規準・基準
1	電話での応答で、話したい相手が電話に出た場合の簡単なやり取りができる。	① 場面の理解とモデル対話の確認 [理解]・L ② 基本表現(Step 1) [理解・表現]・L, R ③ モデル対話の音読・ロールプレイ(Step 2) [表現]・R ④モデル対話の暗唱(Step 2) [表現]・S	・対話の内容が理解できるか(理解できるA、支援で理解できるB) ・対話が暗唱できたか(暗証できるA、読むことはできるB)
2	電話で、相手を招待したりさそったりする対話をする事ができる。	⑤モデル対話の応用、創作(Option) [表現]・S ⑥Option 発表 [表現]・S	・創作活動がペアで協力して発表できたか(発表できるA、創作活動はできるB)

5 本時の指導目標

「話すこと・聴くこと」において、簡単な Q&A や Skit を使って、主に電話での会話という場面で、生徒が相手をパートナーなどに「誘う」ことができるようになる。

- (1) 下位目標 1 ・積極的な態度でコミュニケーションを図る努力をする
- (2) 下位目標 2 ・Hello?/ This is～. などの電話特有の表現を用いて、電話の出だしの対話ができる

6 本時の学習展開

	学習活動	学習内容	指導・援助と評価の創意工夫	備考・教具
復習及び 発展 15分	①This is～、Does～?の受け答え、三単現Sの確認 ②Who～?の確認 ③Where～? What do you have～?の確認 ④現在進行形の確認	①任意の人物についての説明をAETから聴き、その人物についてのQ&Aを行う ②AETのWho am I?の質問に英語で答える ③任意の配布されたカードの人物になりきり、お互いにインフォメーションギャップ的インタビューを行う ④AETのジェスチャーを英語で当てる	①、②、④積極的にゲーム的要素の言語活動に参加しているかを観察する ③異文化理解教育の観点から、世界における日本の現状について少し触れ、生徒の理解を促す 評価場面 1 <具体的評価規準> ・積極的な態度で言語活動に参加していない場合、個別に支援していく(関心意欲態度、L) <評価方法> ・観察法(関心意欲態度Bの生徒中心に言語活動への参加率を以前より向上させる) <手立て> ・必要に応じてヒントを与え、個別指導の充実化を図る	①、②ピクチャー ③「100人村」インフォメーションカード *時間に合わせて内容を省略する
導入 15分	①モデル Skit の実演 ②単語、イディオムの意味の提示と練習 ③本文内容大意把握	①電話での対話 Skit の実演を見て、状況と内容を理解する ②-1 新出単語の意味を把握し、内容を深く理解する ②-2 単語、イディオムの発音練習をする ③重要文の意味を考える	①～③音声(変化)等に注意して発音練習できるか(理解、表現、S)、本文内容理解(理解、R) 評価場面 2 <具体的評価規準> ・積極的な態度で本文を音読し、感情を込めて音調が変化して読めているか(表現、R)、更にペアで暗唱ができていないか(表現・理解、S) <評価方法> ・観察法(知識・理解Bの生徒中心に暗唱発表活動への参加意欲を向上させる) <手立て> ・必要に応じてヒントを与え、個別指導の充実化を図る	①電話の模型 ②フラッシュカード ③日本語全訳プリント
展開 20分	①Skitの音読練習 ②Skitの暗証 ③Skitの応用(Substitution) ④応用Skitの発表 ⑤発展創作Skitの提示	①音読のモデルを聴く→音調に注意してRepeatする ②Skitを全体暗唱練習し、ペアで役割分担して個別練習する ③ワークシートを活用して実際の場面に近づけて音読練習→暗唱練習をペアで行う ④応用Skitが発表できるペアは発表する ⑤Optionを活用して更に、深めたSkit例を観て理解する	②Skitの暗唱ができるか(できるA、読む程度B) 評価場面 3 <具体的評価規準> ・応用Skitの暗唱ができて、発表できるかA(表現・理解、S)、できない場合は感情を込めて音声変化を伴った本文暗証発表Bもしくはワークシートを見ながらの音読発表B(表現・理解、S) <評価方法> ・観察法、発表内容・方法・態度(態度、知識・理解Bの生徒中心に発表活動への参加意欲を向上させる)、机間巡視(支援分担→応用SkitはAET、未到ペアはJTE) <手立て> ・各ペアの必要に応じて、段階的にヒントを与え、個別指導の充実化を図る	①教科書 ②個別暗唱練習は互いに背面で行う ③応用Skit用ワークシート ⑤創作Skitが発表できるペアには発表させる
まとめ	・確認と予告、連絡	宿題等をメモする		ノート

(1A 後半グループ 男子7名、女子7名)